

福山に咲く「ミステリーローズ」

由来の分からないばら「ミステリーローズ」

現代のばらは、香りや花形、耐病性などを追求して品種改良されたものが多く、名前や育種の記録がはっきりしています。一方、ミステリーローズは名前や由来が不明で、長い年月を経て街の中で生き残ってきたばらです。

1950年代、バミューダ諸島で名前の分からない古いばらが多数発見され、そのうちの 하나가、現代ばらに大きな変革をもたらした‘スレイターズ・クリムゾン・チャイナ’であることが分かりました。‘スレイターズ・クリムゾン・チャイナ’は、当時すでに失われた品種と考えられていましたが、その再発見は大きな反響を呼び、1954年のチェルシー・フラワーショウで大々的に紹介されました。その後、1979年にバミューダを訪れたイギリスのピーター・ハークネスが、その一群のばらを見て「ミステリーローズ」と名付けたことで、世界に知られるようになりました。

日本でも同様に、個人宅や古い施設の庭先で、ミステリーローズが発見されています。これらのばらは、長い年月をかけて日本の風土に適応してきたため、栽培に特別な手間を必要とせず、歴史的な建物や庭園とも調和します。また、肥料や農薬がなくとも長い年月の試練に耐えてきたミステリーローズの持つ生命力は、環境に優しい庭づくりの素材として大きな可能性を秘めています。

市内で見つかった3種のミステリーローズ

福山市内ではこれまで3種のミステリーローズと思われるばらが発見されています。

廉塾バラ ‘福山茶山薔薇’



2021年4月発見。
江戸時代後期の儒学者、菅茶山の旧宅で発見されたばら。
赤いチャイナ系の庚申ばらの一種で四季咲き。

‘福山太白’



2015年10月発見。
福山市駅家町の民家で栽培されていたばら。
白い大輪のティー系香りのばら。

‘福山雅’



2021年4月発見。
福山市三吉町の国道沿い街路樹樹で発見されたばら。

ミステリーローズで繋がる、広がる

地域で受け継がれるミステリーローズ

廉塾バラは、地域の新たな宝として、地域住民らが中心となり、挿し木で苗木を増やし、地域や各家庭で育てる取り組みを行っています。



駐日イタリア大使館

「Rose Expo FUKUYAMA 2025」の大使・大使夫人のローズガーデン展示の協力に対する感謝と友好の意を込めて、2025年4月、駐日イタリア大使公邸へ3種のミステリーローズを植樹しました。



緑町公園

2024年3月、緑町公園の植栽整備によりローズヒル周辺に「ばらの森」を整備。ミステリーローズゾーンが新たに完成しました。福山で発見された「廉塾バラ」をはじめ、「ミステリーローズ」や「ファウンドローズ」と呼ばれる、日本各地に植栽されている由来の分からないばらを植栽しています。



緑町公園などに植栽されているばらの一部は、世界バラ会議福山大会実行委員会「ばらのまちづくり部会」の皆さんが接ぎ木・挿し木により育成しました。